

平成 25 年度 学校評価（自己評価）

I. はじめに

学校における最も重要な項目は、**園児の育ち**と、その為の**教師力の向上**にあると考える。それ故、**平成 20 年度**は、大きくはその 2 点に絞り、学校評価を行った。**平成 21 年度**は、**全保護者にアンケート**を実施し、その結果を基に学校評価を行った。**平成 22 年度**は、健康管理などの保健衛生面・園児の基礎体力の養成・安全対策 等の項目について学校評価を行った。**平成 23 年度**は、授業参観と誕生会と個人懇談会・子育て支援（教育講演、預かり保育、就園前 2 歳児の芽生え教室）・お母さんのサークル活動 について、学校評価を行った。**平成 24 年度**は、**先生の指導力の向上・力量 up** のために、本園が取り組んでいる**研究授業の一点に絞って**学校評価を行なった。この項目は、平成 20 年度にも行なったが、より具体的にその詳細にまで踏み込んだものであった。**本平成 25 年度**は、**食事指導を通しての園児の心の育ち・地震などの災害を通しての人としての有り様・オリンピックなどの社会での出来事を通しての感性の育成**について学校評価を行う。

II. 本年度の学校評価の項目として、心の育ち・人としての有り様・感性の育成を選んだ理由

幼児教育や義務教育時には、知識の伝達も大切な項目ではあるが、それ以上に、人としての感性を豊かにすることが求められていると考える。

安松幼稚園では、教育課程のあらゆる分野を通じて、子供たちの**心の育ち・人としてのあるべき姿・もの事に対する感受性を高め豊かにするための授業展開(教材の選択)**を心がけている。

本年の学校評価は、上記の点を中心にして、具体的に述べることにより、自己評価を行い、その上にたった学校関係者評価をお願いする次第である。

III. 本園の教育目標の確認

優しく そして たくましく (健やかに 豊かに 賢く)

「ここは一発やるぞ!!」という強い精神力と共に、優しい心を育てたい。

人としての感受性を磨くと共に、社会の出来事と関連づけながら、周りの色々な人や物事に感謝する心を育みたい。

IV. 安松幼稚園における「心の教育」を具体的に述べていく

(1)食事指導

当園の食事指導は、次の 3 点を柱としています。

●**まずは食事を楽しむ**ということです。

時には音楽を聞きながら、**先生やお友達と一緒に楽しく食する事を第一**としています。

昨日遊びに行ったことや運動会や遠足の話等、

騒がしくならない程度に、先生やお友達とお話をしながら楽しくいただきます。

まず楽しく!!……これが第一です。



●次は好き嫌いを少なくし、出されたものを残さずに食べることが出来るようにしたく思っています。しかし好き嫌い^①と食事量は、個人差がとて大きいのです。

お母さんにとっても、頭の痛い問題だと思います。

幼稚園では、時間をかけて少しずつ好き嫌いを少なくし、出されたものを残さずに食べる方向にもっていきます。

- ・自分でお箸を持って食べようとする意欲を育てることが第一です。
- ・お箸は日本文化の一つですから、スプーンやフォークだけでなく、幼児期からお箸を持つことに慣れさせていきましょう。

子供の好き嫌いの度合いによって、また食の細さの度合いに応じて、先生が子供のお箸で分けて、「今日は、ここまでいただきますよ。先生も応援しますよ」と励ましなが、徐々に食べることが出来るようにしていきます。そして少しでも嫌いなものを食べた時や、食の細かい子供が多めに食した時は、「偉かったねえ。よく頑張りましたよ」と声かけをし、お友達も、「すごい、すごい」と、手をたたいたりします。

こういう風にお友達と一緒に食事をする事によって、ある程度の期間があれば好き嫌いも少なくなり、また食の細かい子供も残さずに食べることが出来るようになります。

しかしもっとも気をつけなくてはならないことは、行き過ぎた指導によって食事の楽しみを奪わないことです。食事は、まず楽しくを忘れてはなりません。

●お箸を上手に扱えるという技術・作法以外に、食事を出来る幸せを感じさせたく思っています。

食事時の挨拶（食事をいただける幸せ）については、年少はまず形から、年中・年長と進むにつれて、その意味を深めて説明していきます。

3歳児年少では、「食事前には、いただきます。食べた後には、ごちそうさまと言うのよ」という形から入ってきます。

学年が進むにつれて、「いただきます」とは単に私がこれから食事をしますよ、食べますよという意味以外に、「お魚や牛などの動植物の命をこの私がいただいて、すなわち奪うことによって、この私の体が元気になり、そして大きくなっていくのですよ」という意味があることを少しずつ伝えていきます。

大人の方になら、「私たち人間は、周りの色々なものの命を奪うことによって、自分の命を保っています。言い方を変えるなら、周りの動植物の命を奪わなくては、生きていけない存在が人間なのです。この事実を目を向ける時、自分を含めた全ての生き物の命を大切にし、もったいない・ありがたいという感謝する心が自然と芽生えるのではないのでしょうか」との表現になるでしょう。

こういう内容を園児たちが理解できる形に噛み砕いて話します。（下の例参照）

すると園児の方から、「食べ物、残したらあかんなあ」とか、「好き嫌い言うたらあかんなあ」「僕、今日は残さんとみんな食べるわ」などの言葉が自然に返ってきます。

幼稚園での給食指導は、好き嫌いをなく色々なものを食するという目的以外に、私たちの周りにある命そのものの尊さに目覚め、その結果自分の命も大切にするという、人間が生きるという意味そのものに触れていくことを大切にしています。

家庭でどのようにお話しされ、また食事時の作法をなされているかは、子供の育ちにとっても重要だと思います。

例；

当園では、先生の感性によって、新聞の写真を教室に貼る園風があります。ある時、アフリカのある地域が旱魃（日照り）で食糧難となり、多くの方が飢餓で亡くなっていく中、栄養失調でお腹の膨れた一人の子供の写真が教室に貼られていました。



ある日、園長先生がその教室で子供達と一緒に弁当を食べました。たまたま一人の園児が、「園長先生でも泣く時あるん？」と話しかけました。園長先生は「そうよ、大人でも涙が出る時はあるのよ。…（少し略）…な非常に嬉しい時も涙が出てくるし、あの写真のように、食べるものがなくて『お腹がすいたよ』と言いながら地面に僅かに残っている草を食べている子供の話を聞いたり、

教室の後に貼ってあるような栄養失調でお腹の膨れた子供の写真を見たら涙が出てくるのよ……」
という内容を、園児にもっと噛み砕いて詳しく話しました。

すると約3、4割前後の子供の目から、スーッと涙がこぼれ、上記下線部のような感謝の気持ちを言葉に出すようになります。

そして今まで残すことの多かった子供も完食するようになり、クラス全体の完食率が大幅に上がります。

当園では、このような**情感豊かな心を子供に育てることこそ食事指導の原点**と考えています。

(2)地震などの災害について分かりやすく話すことで 命の尊さを伝えます

- 1995年(平成7年)1月17日午前に起きた阪神淡路・大震災

2004年(平成16年)12月26日スマトラ島沖地震

また直近の2011年(平成23年)3月11日(金)に起きた東日本大震災 等の色々な災害について、毎年カリキュラムの中で、子供たちに話す時間をとっています。

自分の問題として捉えやすいように、写真などを新聞から切り取って、教室に掲示します。

そういう環境の中で、3歳の子供でも理解できるように、噛み砕いて話します。多くの子供が真剣に話を聞き、中には涙を流しながら聞く子供もいます。

- **教育とは、子供たちの心を震わせ魂を揺さぶること**だと思います。大人がきちっと心を込めて話しさえすれば、3歳の子供も皮膚感覚で理解し、いやむしろ3歳・4歳・5歳の幼稚園児の方が、私達大人より感受性があるようです。

「日常、私達が当たり前と思っていることが実はそうではなくて、色々な周りのお陰により支えられているんだ」ということを感じる心を、安松幼稚園では育てたく思っています。

災害は悲しい出来事ではありますが、そういう時こそ、子供たちとしみじみと話す機会でもありません。



(3)オリンピックなどの社会での出来事を通しての感性の育成について

- 出初め式への参加を一つの機会として、私達の社会・国は、色々な人のお陰で成り立っている。そして殉職された方への黙祷の意味を説明するとともに、警察や消防の方、また日曜日でも電車を運転してくれている方など、社会で色々と働いてくれている人のお陰を感じ、感謝する心を育てている。

- 今年は、冬季オリンピックが開催されました。そういう出来事を通して、人として努力することの大切さなどを話します。それと共に、うまく演技ができてメダルを取れた人はとても素敵だし、失敗してメダルを取れなかった人も、長い間頑張ってきたことはとても素晴らしいことなのですよ等の話をします。

人としての生き方を少しでも感じてほしいと願っています。

V. 安松幼稚園における「心の教育」に関する評価

以上が、安松幼稚園で実践されている「食事指導などを通じた心の教育」の一端である。全ての先生による自己評価を行ったが、子供の中に

- ・周りに感謝する心
- ・頑張ろうとする心
- ・周りの人を思いやる心 が育っている との評価であった。

それは、年少さんの食事において、「みんなのお陰や。残したらもったいない」という気持ちが芽生え、全員が完食するに至っていることから伺うことができる。

現場の先生は、おわかり頂けると思うが、一クラス全員完食ということは、至難のことなのである。以上のできごと等々により、「十分に、心の教育の成果を上げている」との自己評価に至った。



補：安松幼稚園では、3歳児・4歳児・5歳児の 発達段階の研究に基づいて、心の教育として、5領域の中の ・人間関係 ・言葉 ・表現 において、「俳句指導」「古典の指導」のカリキュラムを開発し実践しているが、ここでは評価の対象としない。

VI. 最後に

幼稚園は子供が初めて出会う学校ですが、安松幼稚園では、学校について次のように考えています。

学校は教師力で決まる

教師力とは先生の熱意と指導力

そしてこれこそ、安松幼稚園の依って立つところであり誇りでもあります。

これら 平成 25 年度 学校評価（自己評価）を、学校関係者委員会に提出し、学校関係者の評価を得たいと考えている。

なお

- ・遠足 お楽しみ鍛錬登山 などの園外保育
- ・色々な行事
- ・異なる学年や入園前の芽生えさんとの交流
- ・特別支援教育

等に関する評価は、次年度以降と致します。

平成 25 年度 学校評価（学校関係者評価）

I. 最初に

今回、学校関係者委員会に提出された本 25 年度の学校評価（自己評価）は、「食事指導などを通じた心の教育」についてでありました。

幼児教育や義務教育においては、知識の伝達も大切ですが、それ以上に人としての有り様を伝え、心を育てていくことが大切のように思います。

学校関係者委員会として下記の評価に至りましたので、ここに学校関係者評価を提出致します。

II. 自己評価にある IV. 安松幼稚園における「心の教育」の中の

(1)食事指導 (2)地震などの災害の話を通して 命の尊さを伝えます

(3)オリンピックなどの社会での出来事を通しての感性の育成

について順に検証していきます。

(1)食事指導 について

自己評価の記載通りだと、実感しております。

単に教育目標として掲げられているだけでなく、教育の中で実践され、目標に沿った成果を上げて下さっていると感じています。

それは、写真にもありますように、3 歳児の給食の完食に表れています。

またお家の食事時において、「嫌いなおかずも、頑張って食べるようになった」とか「お米の一粒一粒には神さんがいるんやで。お百姓さんが暑い日も田んぼで作ってくれたんやから、残したらあかんやで」というような会話が、子供から出てきて、親が負けそうになるという話を、私達は周りのお母さん方からよく聞きます。

(2)地震などの災害について分かりやすく話すことで 命の尊さを伝えます について

自己評価の記載が適正であると認めます。

傍証として、以前の園新聞にあった保護者の記事と先生の返事 並びに この 2 月に HP に up された保護者からの感想一部分を、ここに記したく思います。私達も気持ちを同じく致しました。

恥ずかしくも親の方が気付かされた次第です

年少一保護者

いつもお世話になり、有り難うございます。

昨日園から帰るなり、「お母さん、阪神大震災はな……」と、話し始めました。

地震で 6433 人ものが亡くなったこと、はさまって動けなくなった事、家もテーブルもお洋服もみんなみーんな失ってしまった事など、一生懸命（たぶん）先生口調でお話ししてくれました。

そして「目つぶって、地震のことを考える気持ちになったんや！！」と。(黙祷のこと！?)

「そうやねー、今日は皆でお祈りしなあかんねえ」と、恥ずかしくも親の方が気付かされた次第です。

3 歳の我が子から、阪神大震災の話が聞けるとは驚きでした。

↑正しい名称で

幼稚園では、こうした大切なお話を解りやすく話して下さるようで、とてもありがたく思っています。

こうした事の積み重ねで、人の心の痛みのわかる子になってくれればと思います。

お母さんのお手紙に対します先生のお返事は、次のようでありました。

周りの人を思いやる心を

年少きりん組 担任 伊藤啓子

寒さが厳しくなってきましたが、子供たちは、外でボール遊び、縄跳び、走りっこなど、元気一杯です。

さて先日は、慶人さんの家での様子を聞き、とても嬉しく思いました。

阪神大震災やスマトラ沖大地震などの話は、どの学年も心の教育として行います。

3歳児には、本当にわかりやすく話します。

こちらが、「こんな風になった人がいましたよ」というような**第3者的な話し方だと、全く心に響かず**、その場で火事が起こっているような「助けてー！！」と叫ぶ声があちこちで聞こえていることなど、**ゆっくり時間をかけて**伝えました。

子供達の中には、涙を流す子供もいました。自分のお母さんが倒れてきた木にはさまって動けずにいる。火は目の前まで迫ってきた。「あなたは逃げなさい。お母さんは後から行くわ！早く逃げなさい！」という状況になったとき、みんなはどうするか……と、考えました。

しばらくして「先生、慶くんは走って逃げる！それでお母さん助けてって言う！」と話していました。私もみんなに「お母さんお母さんと、泣いてくっついてばかりいてもだめ！勇気を出して逃げるのよ」と伝えました。

3歳は3歳なりに受けとめている顔をしていて、私も胸が一杯になりました。

慶人さんの心の成長をみな先生で喜びました。

理事長先生の添え文

3歳児の子供たち、そして慶人さんの優しさ・感受性に脱帽です。

「日常、私達が当たり前と思っていることが、実はそうではなくて、色々な周りのお陰により支えられているんだ」ということを感じる心を、当園では育てていきたいと思っています。

災害は悲しい出来事ですが、そういう折こそ、子供たちとしみじみと話す機会でもあります。慶人さんの年中をととても楽しみにしています。

フレーフレー 慶人さん !!

追伸；私は、伊藤先生のこの返事のお手紙を見て、涙がこぼれました。

教室での伊藤先生と子供達の心の交流が頭をよぎったのです。子供達に色々なことを想像させ、優しい心を育て下さる伊藤先生や当園の全ての先生に感謝します。

先生の話が悲しかったからちょっと涙がでたんよ

年少きりん組 角田理恵子

いつもお世話になっております。

昨日は嬉しいお話をありがとうございました。(理事長注：阪神淡路大震災の際、大きなゆれで家が壊れたり、火事などで、たくさんの人が亡くなった話をしました)

普段、話しかけても返事もしないことがある智隆が、先生の話に入り込んで、**聞く力が少しずつついてきていると実感でき、ありがたい**と思いました。**先生の熱のこもった口調や内容が、智隆を引きつけたのだ**と思います。

しっかり聞き、登場人物の気持ちになり、心を動かされ、涙で感情を表現したこと、すべてが私にとってもすごく嬉しいことでした。

また私自身が生死について軽々しく語りたくない気持ちがあり、今まで智隆に虫や金魚の死についてさえ見せてこなかったのが、少し考えさせられました。

発表会での群読の“アフリカ象の話”や園便りにあった“殉職の話”も含め、4歳の智隆にはまだ早いかと考えていましたが、**4歳は4歳なりに感じるものがあり、早すぎるとか無駄だということはないのかな？**と、思いました。

智隆は帰宅後、「先生の話が悲しかったから、ちょっと涙が出たんよ」「僕のお母さんが地震にあつたら、僕が魔法使いになって助けるからな」と言っていました。分かっているのか いないのか？ ですが、本人なりに色々と感じ思ったのだと思います。

地震や生死という難しい話を、子供に分かりやすく変な抵抗感を持たせずに話して頂き、本当に有り難うございます。

(3)オリンピックなどの社会での出来事を通しての感性の育成 について

自己評価が適正であると、高く評価します。

安松幼稚園の子供たちは、「結果にかかわらず、努力することの必要性」を強く感じています。いや、努力することの必要性というより、何事にも全力で取り組んでいく、つまり「努力することが身につけている」といった方が適切だと思います。

日常の園生活の中で、お楽しみ音楽会や運動会・生活発表会などの行事を通じて、縄跳びや末広マラソンを通して、そういう姿勢・感性が養われていると高く評価します。

Ⅲ. 最後に

理事長先生は、

学校は教師力で決まる 教師力とは先生の熱意と指導力 それらが安松幼稚園の誇りと、よく言われます。

安松幼稚園では、先生の熱意と指導力が、豊かな子供の感性を引き出してくれています。

食事指導を通しての園児の心の育ち

地震などの災害を通しての人としての有り様

オリンピックなどの社会での出来事を通しての感性の育成 など

子供たちの生きる力を、養って頂いていると、強く感じています。

以上より、私達はここに、自己評価は適切であるという学校関係者評価を提出致します。